

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表: 令和6年2月14日

事業所名: 多機能型事業所わくわくコスモス(児童発達支援)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		・活動内容やその日の利用人数によって活動室とプレイルームを使い分けている。 ・プレイルームでは、体を十分に動かして遊べるスペースが確保されている。	・クールダウンのスペース確保が課題だと感じる。
	2 職員の配置数は適切であるか	○		・利用者の人数や特性に応じて個別対応や細やかな支援ができるように人数を配置している。	・小集団をさらにグループに分けて、職員を配置するなどしてより丁寧に細やかな支援を行うことができるように対応している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		・個々の特性に応じて絵カードなどの視覚支援を活用している。 ・視覚刺激となるような掲示物等は少なくしている。 ・車椅子や肢体不自由の方でも移動がスムーズにできるようにエレベーターを設置しており、大きく目立った段差もなく、安心して過ごすことができるようになっている。	・今後も、個々の特性に応じて絵カードなどの視覚支援を使用して構造化された環境を設定し、子どもたちが過ごしやすい環境を整えていく。 ・目立った段差もなく、活動室とトイレがつながっているため、移動がスムーズである。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		・毎日の活動前後の清掃と併せて気付いた時には迅速な対応を行い、心地よく過ごせるようにしている。	・常に清潔な環境を整えるように努めていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		・職員間の連絡ノートを活用したり、朝や昼にミーティングを行ったりして、全職員で共通理解や業務改善を図れるようにしている。 ・活動の振り返りを行い、次の活動につなげる取り組みができていく。 ・支援会議では、課題の整理表を用いて、個々の実態把握と課題の抽出を行い、支援目標等を設定している。	・今後も全職員がPDCAサイクルのマネジメントで業務改善を意識できるように共通理解を図っていきたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		・評価表は、毎年1月に記入していただき、まとめている。職員にも周知して、家族会で要望などに対する事業所からの回答や検討などを伝えている。	・面談時だけでなく、連絡帳や送迎時でのやりとりからも、ご家族の意向をくみ取り、寄り添った支援を心がける。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		・自己評価結果については、ホームページで公開している。	・自己評価の結果を見直し、より良いサービスや支援の提供ができるように改善を図っていく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	・第三者による外部評価は実施できていない。	・法人全体の課題と捉えて、実施に向けて検討したい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・月一回の職員研修や、サポーターズカレッジという研修サイトを利用している。	・今後も積極的に研修に参加をして、研修報告を確実にし、全職員が情報を共有して、職員の資質向上に努める。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		・保護者との面談を通して、事業所での様子や家庭、幼稚園、保育園での様子を情報交換している。その際に、保護者の要望等を確認して計画に反映している。 ・日々、職員間で子どもの姿を話し合い、共通認識を持つようになっている。	・今後も子どもの成長、発達について、アセスメント結果に基づきご家族と一緒に話し合い、情報を共有した上で作成していく。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		・遠城寺式乳幼児分析的発達検査表や子ども総合療育センターからの所見、また、スタッフ派遣事業で来られるやまびこ医療福祉センターの言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、臨床心理士の所見も参考にしている。	・今後も遠城寺式乳幼児分析的発達検査表や療育センターの診断票、やまびこ医療福祉センターの先生方の助言を参考にし、よりよい支援を心がける。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		・子どもの実態を把握し、保護者の意向を踏まえた上で、5領域を意識した具体的な支援内容を設定している。	・今後も5領域を意識した具体的で分かりやすい支援内容を記載していきたい。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		・個別支援計画に基づいて支援を行い、活動後には振り返りをして、支援日誌に記録をしている。	・今後も日案立案時に、個別支援計画に沿った個別の支援目標を設定し、計画を立て支援に当たる。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		・翌月の月案を職員間で話し合うことで、利用者の発達に基づく支援プログラムの立案に努めている。また、立案時に活動のねらいを明確にしている。	・チームで活動プログラムの立案を行っている。引き続き、子どもの実態に応じたプログラムを計画していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		・季節や個々の発達段階に応じた活動内容を取り入れるように工夫し、実施している。また、ガイドラインや保育所保育指針、幼稚園教育要領、自立活動などを基盤にしながら取り組んでいる。	・子どもの実態を把握し、スモールステップで成功体験を積むことができるように工夫している。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		・特性や年齢に合った個別活動と集団活動を組み合わせながら作成している。	・少人数のグループ活動を通して、細やかな支援を心がける。 ・子どもの特性に応じて、個別や集団での活動を組み合わせる。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		・活動時の利用者への配慮事項の確認、担当などを明確にして、共通理解に取り組んでいる。また、送迎ボードを活用していつでも確認できるようにしている。	・今後も振り返りの時間を大切にし、個々の状況について職員間で共通理解を図るよう努める。
18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		・支援終了時に振り返りを行い、改善点や良かった点を話し合っている。また、子どもの実態についても情報共有している。	・連絡ノートを活用したり、支援日誌、業務日誌を確認することで、情報を共有できるように努めている。 ・パート職員等とも確実に情報共有を図ることができるようにグループウェア等を活用していく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		・活動終了後に個別支援計画に基づいた記録を入力している。また、家族支援、地域支援、移行支援に関しても随時記録をとり、支援の検証、改善に努めている。	・今後も個別支援計画に基づいて、支援内容を記録して、日々の支援内容を振り返るようにしていく。また、家族支援、地域支援、移行支援に関しても記録をとることで共通理解を図り、連携してよりよい支援ができるように取り組むとともに、記録を取る際は第三者にも分かりやすくまとめるように心掛けていく。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・個別支援会議では課題の整理表を用いて本人の強みを生かした計画の見直しを話し合っている。 ・6か月に1回、ご家族と面談を行い、ご家族の意向を確認しながら、計画の見直しを行っている。	・モニタリング時に毎回、発達検査を行うことで、客観的な視点が持てるようにしている。ご家族のニーズを十分に把握し、本人の強みに注目して、計画の見直しを判断していく。
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		・児童発達支援管理責任者か担当職員が参加して情報提供を行っているが、電話でのやりとりも多かった。	・相談支援専門員の働きかけにより、担当者会議が実施されているが、実施されないことも多いので、こちらから積極的に働きかけていきたい。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		・例年、地区の会議に参加して、保健師や地区の児童発達支援事業所と情報交換を行っている。 ・子育てサロンに参加し、児童民生委員の方とも連携を図っている。	・今後も積極的に会議に参加し、関係機関と連携を図っていきけるようにしたい。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			・現在、対象者はいない。	・今後の受け入れを考慮して、医療機関との連携について想定した体制を構築していきたい。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			・現在、対象者はいない。	・今後の受け入れを考慮して、医療機関との連携について想定した体制を構築していきたい。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・これまでの支援内容や配慮事項を記入した移行支援シートを作成して、情報共有と相互理解を図っている。	・年度始めや利用開始前には園へ訪問して、相互理解に努めていくように今後も取り組む。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・移行支援シートを作成して、幼保小連絡会に参加し、情報共有と相互理解を図っている。 ・年度始めや利用開始前には園に訪問して情報の共有を行っている。	・今後も移行支援シートを作成し、積極的に幼保小連絡会に参加して、情報共有するように努めていく。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		・他の児童発達支援事業所との情報共有を積極的に行うように努めている。	・より連携を図ることができるように今後も横の繋がりを大切にしていきたい。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		・地区の子育てサロンに参加して地域の親子や民生委員の方と関わる機会を設けている。	・園での交流はないが、地域の子育てサロンに参加して、活動する機会を設けている。
29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		・事前に予定を調整して、外部研修に参加している。	・これからも積極的に参加をしていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		・送迎時や連絡帳に記入するなどして、子どもの様子を伝えている。また面談時にポートフォリオを作成し、情報伝達に努めている。 ・必要に応じて電話でのやり取りもこまめに行っている。	・普段からのコミュニケーションを大切に して、関係作りに努めると共に、保護者の 困り感に対して適切に対応できるよう スキルを身につけていきたい。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		・理学療法士による体操教室を実施したり、言語聴覚士による講話を開催したりした。	・今後も定期的に保護者対象の研修を実施 していきたい。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		・見学に来られた際や契約時に説明をしている。	・面談時に確認し、必要であれば再度説明 する。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		・面談時に説明をして同意を得ている。また、分かりやすい丁寧な説明を心掛けている。	・児童発達支援ガイドラインを使用しながら、 今後も丁寧な説明を心掛ける。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		・面談時に相談を受けたり、送迎時や連絡帳、電話でも随時相談に応じたりしている。 ・必要に応じて、書籍を紹介したり、具体的な対応方法を伝えたりしている。	・普段からのコミュニケーションを大切に して、関係作りや職員の資質向上に努め る。 ・どの職員でも対応できるように職員研 修にも努めていく。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		・例年、年1回家族会を行っている。 ・保護者同士が交流できる場として「おしゃべりカフェ」の企画を行った。	・年1回の開催にとどまっておき、保護者 同士の関わりを持つ機会がほぼないことが 現状の課題として挙げられるため、今 後、開催時期や開催方法等を検討すると ともに、家族が気軽に参加できるような 内容を企画し、顔を合わせたり話ができ る場を提供していきたい。 ・欠席の保護者の方々をいかに出席した いと思える会にするかが課題だと感じて いる。魅力的な内容にしていきたい。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		・相談や申し入れがあった際には、可能な範囲で迅速に対応し、職員間で情報共有を図っている。 ・子どもの声にならない訴えにも配慮して支援に当たっている。	・今後も、相談があった場合は、迅速に 対応を行う。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		・毎月1回、活動内容や写真等を掲載した月報を配布している。 ・活動予定表に活動のねらいを記載するようにし、保護者に活動の意図が理解しやすいように工夫した。	・今後も、月報やホームページを利用し て情報発信を行っていく。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		・全職員、取り扱いに注意を払っている。	・今後も取り扱いに十分注意を払ってい く。
39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		・写真や実物などを使って、イメージを持ちやすくしたりするなど配慮している。また、保護者には、事業所の携帯、SNSを通していつでも連絡がとれるように努めている。	・言葉で表現できない思いを汲み取るな ど、相手に寄り添った支援を心がける。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		・法人のホームページを活用し、活動内容を掲載している。 ・地域の子育てサロンに参加している。	・今後も、地域の子育てサロンへの参加を継続する。 ・定期的に法人のホームページに活動内容の記事を掲載し、活動内容等の情報発信を行う。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		・各種マニュアルをもとに、毎月、地震や火災を想定した避難訓練を行っている。	・月報で避難訓練実施について案内をしているが、家族への周知は、不十分と思われるため、面談時などに、改めて説明する機会を設けたい。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		・様々な災害を想定して（火災、地震、風水害、不審者対応）毎月実施している。	・今後も、毎月の避難訓練を実施し、子どもたちの避難行動を習慣化していく。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		・契約時の聞き取りや保護者からの連絡で確認している。	・今後も、登園前の状態や通院の状況なども含め、細やかな連携を図っていく。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			・現在、対象者はいないが、対象者を受け入れた際には、事前の確認と必要な対応を行う。	・契約時に確認を取り、全職員が把握し、十分に注意していく。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		・報告書を作成して、職員間で情報共有することで、安全への意識を高めている。	・今後も全職員が意識を高め、事例を共有していく。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		・虐待防止の研修には必ず参加し、報告して周知している。また、事業所内研修においても、人権に関するチェックシートを用いて日頃の支援の振り返りを行っている。 ・常に利用者主体であることを念頭に支援に当たっている。虐待はあってはならないことである。	・より一層虐待防止に努めていく。 ・人権に関するチェックシートや労働環境条件メンタルヘルスチェックリスト、職員セルフチェックリスト等を定期的に活用し、虐待防止に努める。
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか			・現在、身体拘束を伴う利用者はいないが、対象者がいた時には、対応できるようにマニュアルも策定してある。	・身体拘束を伴う利用者がいないので、計画に記載はしていないが、今後対象者がいた場合は検討する。	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)